

永平寺町 えちぜん鉄道 観音町駅PR看板 えい坊君と、町の花 梅をデザインしました。

生活科学学科 生活デザイン専攻 教授 西畑 敏秀

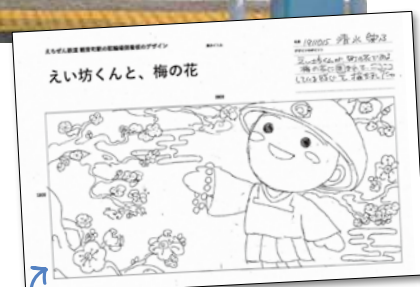


短大と包括連携協定を結んでいる永平寺町から、えちぜん鉄道観音町駅にある町のPR看板が20年以上放置されたままなので、一新したいとの依頼がありました。10年後、20年後も、町民の子や孫の世代が、大好きなふるさととして、心から「住み続けたい」「住んでよかった」と言えるようなまちをイメージさせるデザインを考案して欲しいという要望のもと、2回生のグラフィックデザインの授業で取り組みました。町からの情報をキーワードに30数案のアイデアを提出。関係者や駅利用者の投票で清水愛乃さんの案が採用され、Macのアプリで原画をもとにデータを制作し完成。3月30日には河合町長やえちぜん鉄道社長、そして本学学長らが出席して設置セレモニーがありました。

清水さんは出席できませんでしたが、次のようなコメントを寄せてくれました。「この度は、私のデザインを採用して頂きありがとうございました。自分の自信にも大きく繋がっていますし、短大生だった頃の私のデザインが利用されているのが本当に嬉しいです。家族や友人からあの看板の前で撮った写真と共にメッセージが送られてきたときは、本当に幸せでドキドキしました。今私は仕事で他県に一人暮らしをしています。慣れない土地で初めての事ばかりで不安と新しい発見の毎日を送っています。ふと観音町駅の看板の事を思い出すと、地元に戻りたいと思うことも。私が

何歳になっても、懐かしさや思い出が甦るものを形として残していただきとても有難く思います。まだ

私自身実物を見ていないので、この状況が少し落ち着いて地元に戻る時には短大の友人と見に行こうと考えてます。私の作品が少しでも永平寺町の活性化に繋がること、永平寺町を知るきっかけになること、地域の皆様の目に留まり元気を与えられるものとなれば、嬉しいです。」



たくさんのアイデアの中から、採用になった清水さんのラフスケッチ。



仁短時代に、仲間たちとイベントに取り組む清水愛乃さん（中央）。現在は関西方面で、ネイリストになる夢を実現するために、いろんな勉強と経験を積んでいる。